



建築設備技術遺産

認定第 12 号 現存する最古のガス吸収冷暖房機

管理者:宮城県管工事会館

所有者:宮城県管工事会館

昭和 40 年代後半、我が国の空調設備は本格的な発展期を迎えていたが、昭和 48 年に起きた第一次オイルショックにより、エネルギーの多様化や省エネルギー化などの技術的大変革を求められていた。この時代の要請を受け、本申請のガス焚の吸収式冷暖房機や各種省エネ技術が広く開発、使用されるようになった。

本申請のガス吸収冷暖房機は、昭和 49 年に三菱ヨーク(株)で製造され、宮城県管工事会館に導入され、平成 24 年まで 38 年間稼働し、引退後は、そのままの状態でも保存されている。また、同形式のガス吸収冷凍機としては、現存する我が国最古のもので、技術的に価値あるものと認め、建築設備技術遺産として認定するものである。



ガス吸収冷暖房機 設置状況